

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	これからの中小病院における在宅医療の信頼と重要について
演者名	高原 美史
所属	函館稜北病院

目的

私たちの病院は外来・入院・在宅・介護までなんでも相談できる医療機関の役割を地域ではたしてきました。現在は地域の急性期病院や訪問看護ステーション等と信頼関係のもとあたたかい在宅医療の実践をこころがけており、今後の中小病院としての信頼と必要性を高めていくことを目的に考えていく。

実践内容

当院の訪問診療は、24時間365日を基本とし月平均185名の管理患者を月曜日から金曜日まで9名の医師と5名の専属看護師にて月計画に基づき診療を行います。H25年度とH26年度の同月比較では急性期病院より依頼数がH25年度10件でしたがH26年度には14件、当院外来・入院管理から在宅移行もH25年度では9件でしたがH26年度は20件と大幅に増加をしております。市内で唯一の在支病の強みを生かし急性期病棟への入院ができるという不安解消と回復期リハビリ病棟にてリハビリを行い在宅へ戻ることができるという二つの選択可能なことが地域で信頼と重要が数字にも現れております。また、4月からの診療報酬改定にて同一施設にて複数患者への訪問診療への減算がされました。しかし、当院では施設への訪問診療も積極的に行っています。これにより施設からの依頼もH25年度は10件でしたがH26年度13件となり紹介数が増加しており重要性を高めております。

実践効果

中小病院の小回りの利く診療体制や急性期病棟と回復期リハビリ病棟を活用し在宅医療を展開する上での支援設備が充実をしている強みをもっている為、DPC病院からは、在宅へ帰りたい終末期患者等、施設からは入居者の新規依頼が増加をしています。

考察

今後、在宅医療は増えると考えられます。ただし今の医師数だけでは限界があり在宅体制を維持していく為には質の高い訪問看護ステーションやケアマネージャーとの連携がより一層必要とされ、更に医師確保の問題があります。今後地域の中で中小病院ならではの対応を続けていきたいと考えています。